

D-044

## RDF ストリーム上での複合イベント検出 Complex Event Detection on RDF Streams

高橋 正和<sup>†</sup> 築井 美咲<sup>‡</sup>  
Masakazu Takahashi Misaki Yanai

佐々木 勇和<sup>‡</sup> 石川 佳治<sup>†§</sup>  
Yuya Sasaki Yoshiharu Ishikawa

### 1. はじめに

ICTの普及により、Web上で生成されたデータやセンサによって取得された実世界のデータなど、様々な情報を取得できるようになってきている。特に、スマートフォンなどのモバイルデバイスと高速通信の普及で、GPSから取得した位置情報などのセンサデータを簡単に利用できるようになった。

このようにして取得したデータストリームからより高次のイベントを検出しようとする処理のことを**複合イベント処理**(Complex Event Processing, CEP) [1]と呼ぶ。既存の複合イベント処理システムの多くは、データを入力としてより高次のイベントを検出しているが、本研究ではイベントを入力としたシステムの開発を目指している。例えば、ある人の行動に関する情報を取得する場合、位置情報(緯度・経度)のみを入力とするのではなく、訪れた場所に関する情報やそのときの環境情報などを含むイベントを入力として扱えるようにする。入力をイベントとすることで、検出した複合イベントを再び入力イベントとして処理し、更に高次のイベントを検出することが可能となる。

イベントを表現するために、**Semantic Web**技術 [2]を活用した**オントロジ**を利用する。オントロジを利用することで、複雑な知識体系の表現と意味的な処理が可能となる。また、公開されている既存のオントロジを再利用することもできる。オントロジは、データを主語・述語・目的語のトリプルで表現する枠組みである**RDF**(Resource Description Framework)で表現されているため、対象となるアプリケーションにおけるイベントもRDFデータとして表現されることを想定する。

本研究では、RDF形式のイベントストリームをオントロジを用いて処理し、ユーザが求める複合イベントを検出するシステムを提案する。本システムは、既存のRDFストリーム処理エンジンを利用し、これに機能を追加することで実現する。以下では、FourSquareやFacebookなどの**位置に基づくソーシャルネットワーク**(Location Based Social Networks, LBSN) [3]で発生するイベントの処理を例として、提案システムについて述べる。

### 2. イベント定義

本システムにおける「イベント」は、アプリケーションによって異なる意味をもつ。そこで、扱うイベントをすべてRDFで定義することで、様々なイベントを定義する。また、各イベント間の関係をオントロジで定義し、マッチングに利用する。

イベントの例として、ユーザが施設にチェックインする場合を考える。チェックインイベントをRDF形式で表すと図1のようになる。**Checkin1**には、時間(**Instant1**)、ユーザ名(**User1**)、施設情報(**Feature1**)が含まれている。**Instant1**と**Feature1**の具体的な情報は、時間や地理空間に関するオントロジに従ってRDF形式で定義する。そして、チェックインイベントが発生するごとに図1のようなRDFがシステムに送信される。

```

Checkin1  rdf:type          lbsn:checkin;
           lbsn:hasTime     Instant1;
           lbsn:hasAgent    User1;
           lbsn:hasFeature  Feature1.
Instant1  rdf:type          time:Instant;
           time:inXSDDateTime "2014-06-30T15:00:00"
           ^^xsd:dateTime.
Feature1  rdf:type          lbsn:Bakery;
           lbsn:name        "Motoyama Bakery";
           geo:hasGeometry  Point1.
Point1    rdf:type          geo:Point;
           geo:asWKT        "POINT(35.163 136.962)"
           ^^sf:wktLiteral.
  
```

図1: イベントの例

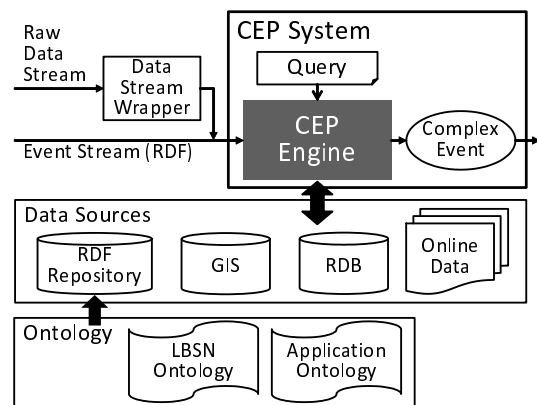


図2: システムのアーキテクチャ

### 3. システムの概要

システムのアーキテクチャを図2に示す。

入力データはRDF形式のイベントストリームを想定しているため、センサデータなどのRDF形式以外のデータについては、**データストリームラッパ**でRDFストリームに変換してシステムに入力する。例えばGPSから取得した位置情報のデータストリームを考えると、流れてくる位置情報をRDF形式に変換するのに加え、時刻やGPSが搭載されている機器に関する情報など、アプリケーションに応じて必要な情報を付加して、イベントストリームを生成する。

入力RDFストリームはシステム内の**CEPエンジン**に送られ、問合せで指定されたイベントを検出する。CEPエンジンは必要に応じてさまざまな情報を外部から取得する。取得するデータには、オントロジで定義された知識が格納されたRDFリポジトリや地理情報をもつGIS、データベースなどの開発者が定義したローカルデータに加え、オンライン上に存在するデータを取得することを想定する。

### 4. CEPエンジン

CEPエンジンのアーキテクチャを図3に示す。

**クエリマネージャ**は、システムから与えられた問合せを分析し、フィルタリングエンジンに登録するC-SPARQL[4]とイベント検出エンジンに登録するSPARQL[5]を生成する。SPARQLは、RDFに対するマッチングを行うSQLに類する言語である。C-SPARQLは、RDFデータストリーム上の連続的問合せのためにSPARQLの拡張として提案された言語で、RDFストリームに対して時間窓(Window)を指定し

<sup>†</sup>名古屋大学大学院情報科学研究科  
Graduate School of Information Science, Nagoya University

<sup>‡</sup>名古屋大学未来社会創造機構  
Institute of Innovation for Future Society, Nagoya University

<sup>§</sup>国立情報科学研究所  
National Institute of Informatics

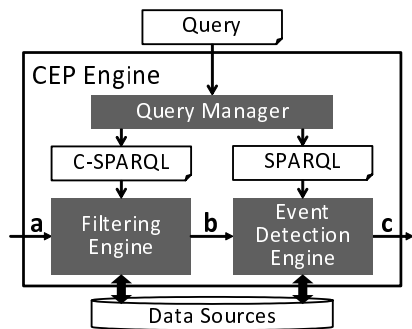


図3: CEPエンジンのアーキテクチャ

```

1:REGISTER QUERY NearFriend
2:CONSTRUCT {
3: ?checkin rdf:type lbsn:checkin;
4: lbsn:hasTime ?time;
5: lbsn:hasAgent ?person;
6: lbsn:hasFeature ?feature.
7:}
8:FROM STREAM <http://lbsn.org/checkin.trdf>
[RANGE 30m STEP 5m]
9:WHERE {
10: ?checkin rdf:type lbsn:checkin;
11: lbsn:hasTime ?time;
12: lbsn:hasAgent ?person;
13: lbsn:hasFeature ?feature.
14: ?person foaf:knows USER.
15: ?feature geo:hasGeometry ?geo.
16: BIND(geof:buffer(CURLOC, 200, uom:meter)
as ?buff).
17: [a geo:Geometry ; geo:asWKT ?buff]
geof:sfContains ?geo.
18:}

```

図4: NearFriend 問合せ

問合せを実行する機能や問合せ結果を RDF ストリームに整形して出力する機能などを有する。

**フィルタリングエンジン**は、RDF 形式のイベントストリーム (図 3-a) を入力とし、問合せで定義されたイベント検出に必要なイベント (図 3-b) を抽出する。フィルタリングエンジンとして、既存の RDF ストリーム処理エンジンである **C-SPARQL エンジン** を利用する。C-SPARQL エンジンで処理できることは限られている [6] ため、フィルタリングエンジンでは時間窓処理と RDF に対する簡単なマッチング処理のみを行う。

**イベント検出エンジン**は、フィルタリングエンジンから出力されたイベント (図 3-b) を入力とする。そして、地理空間演算 (例: 距離計算) などの処理を行い、結果を問合せで定義された形式に整形して出力する (図 3-c)。

## 5. CEP エンジンに対する問合せの例

### 5.1 NearFriend 問合せの概要

図 4 は、直近 30 分以内にユーザの近く (ここでは 200m とする) で発生した友人のチェックインイベントを検出し、検出結果を 5 分毎に RDF ストリームの形式で出力する NearFriend 問合せである。

FROM STREAM 句では、チェックインイベントのストリームを取得し、[RANGE 30m STEP 5m] で大きさ 30 分で 5 分毎にスライドする時間窓を指定している。

WHERE 句では、各チェックインイベントが問合せの条件に当てはまるか判断する。友人であるかの判断は、FOAF (Friend of a Friend) [7] の foaf:knows という述語で行っている。近くにいるかどうかは、ユーザの現在地から半径 200m の範囲を表す ?buff を作成し、その範囲に友人が存在しているかを geof:sfContains という GeoSPARQL[8] の述語を使用

して判断している。

結果は、CONSTRUCT 句で指定された RDF ストリーム形式に整形される。

### 5.2 問合せ処理

はじめに、NearFriend 問合せを与えられたクエリマネージャは、問合せを分析して C-SPARQL と SPARQL を生成する。C-SPARQL は FROM STREAM 句 (図 4 の 8 行目) と WHERE 句の一部 (9~15 行目) に該当する問合せで、フィルタリングエンジンに登録される。一方、SPARQL は WHERE 句の残り (16~18 行目) と CONSTRUCT 句 (2~7 行目) に該当する問合せで、イベント検出エンジンに登録される。

入力イベントストリーム (図 3-a) は、図 1 のようなチェックインイベントのストリームとする。フィルタリングエンジンは、入力に対し C-SPARQL で定義された問合せを実行し、「30 分以内に発生した友人のチェックインイベント」を入力イベントと同じ形式で出力する (図 3-b)。

イベント検出エンジンは、フィルタリングエンジンから出力されたイベントに対し、各チェックインイベントがユーザの近くで発生したものかを判断する SPARQL 問合せを実行する。そして、問合せ結果を CONSTRUCT 句で指定されたチェックインイベントストリームの形式に整形して出力する (図 3-c)。

## 6. まとめと今後の課題

本稿では、オントロジを利用したイベント処理システムの概要について述べた。本システムは、オントロジを利用してイベントを動的に定義し、関連イベントも含めてマッチングを行うことができる。オントロジに基づくイベント処理に関する議論は [9] でなされているが、動画データ等を対象とした知識表現が研究の対象であり、本研究とは目的が異なる。

C-SPARQL をはじめとする RDF ストリーム処理エンジンの研究は現在も続けられているため、仕様の変更や機能の追加が行われる可能性がある。今後はこのような研究の動向を注視しつつ、システムの詳細化と実装について取り組む予定である。

## 謝辞

本研究は科研費 (25280039, 26540043) による。

## 参考文献

- [1] Gianpaolo Cugola and Alessandro Margara. Processing Flows of Information: From Data Stream to Complex Event Processing. *ACM Computing Surveys*, Vol. 44, No. 3, 2012.
- [2] 荒木雅弘. フリーソフトで学ぶセマンティック Web とインタラクション. 森北出版, 2010.
- [3] Chi-Yin Chow, Jie Bao, and Mohamed F. Mokbel. Towards Location-based Social Networking Services. In *2nd Intl. Workshop on Location Based Social Networks (LBSN'10)*, pp. 31-38, 2010.
- [4] Davide Francesco Barbieri, Daniele Braga, Stefano Ceri, Emanuele Della Valle, and Michael Grossniklaus. Querying RDF Streams with C-SPARQL. *SIGMOD Rec.*, Vol. 39, No. 1, pp. 20-26, September 2010.
- [5] SPARQL 1.1 overview. <http://www.w3.org/TR/sparql11-overview/>, March 2013.
- [6] Ying Zhang, Pham Minh Duc, Oscar Corcho, and Jean-Paul Calbimonte. SRBench: A Streaming RDF/SPARQL Benchmark. In *Proceedings of the 11th International Conference on The Semantic Web - Volume Part I, ISWC'12*, pp. 641-657, Berlin, Heidelberg, 2012. Springer-Verlag.
- [7] Dan Brickley and Libby Miller. FOAF vocabulary specification 0.98, August 2010.
- [8] Robert Battle and Dave Kolas. Enabling the geospatial semantic web with Parliament and GeoSPARQL. *Semantic Web*, Vol. 3, No. 4, pp. 355-370, 2012.
- [9] A. Gupta and R. Jain. Managing Event Information: Modeling, Retrieval, and Applications. *Morgan & Claypool*, 2011.